

イスラエルとトルコの情勢

2010年1月24日 アシェル・イントレーター

トルコ-イスラエル関係において、私たちのパートナーでもあるトルコの宣教師からの最新情報です。

1492年のスペイン異端審問時、ユダヤ人はスペインから追い出され、オスマントルコ帝国に受け入れられました。オスマントルコ帝国はセファルディ系(注)のユダヤ人にとって1910年の帝国の終焉まで(第一次世界大戦の直前まで)400年間安住の地となりました。1992年、トルコとイスラエル(と世界中のユダヤ人と共に)は500年に渡る良好な関係を祝いました。

注:セファルディ系ユダヤ人-セファルディムとも言う。セファルディムは、中世にイベリア半島(スペイン、ポルトガル)に住んでいたユダヤ人の子孫を指す。1492年、イベリアに残る最後のイスラム政権を滅ぼしたスペインにおける大規模な排撃で、その多くが南ヨーロッパや中東、北アフリカなどのオスマン帝国の領域に移住し、少数ながら、オランダやイギリスにも移り、20世紀にいたる。言語はアシュケナジムのイディッシュ語に対し、ユダヤ・スペイン語(ラディノ語、最近ではジューズモ語またはフデスモ)を特徴とした。(Wikipedia「セファルディム」から引用)

最近私たちはイスラエルとトルコの関係において重要な変化が起こっていると感じています。このような歴史的な同盟と友情は昨年崩れ始めています。

それは「キャスト・レッド(鑄造された鉛)作戦」から始まりました。この作戦は、8年に渡りガザ地区からイスラエル南部の街々への爆撃にイスラエルが反撃したものです。トルコ首相がイスラエルの行動を過剰に非難し、2009年スイスのダボス世界経済サミットでペレス大統領に対してむき出しの怒りを表したことによって頂点に達しました。続いてトルコでの多くの出来事が、何かの間違ったことを示していました。トルコ政府が出資するチャンネルで、フィクションのTVシリーズでガザにいるパレスチナ人に対するイスラエル人の行動を描写し、それにはイスラエル兵が赤ん坊、子どもそしてその他の無実の市民を殺すという暴力的なシーンを伴っていました。これによって市民感情を悪化させ、その結果幾人かのトルコ人は公にイスラエルに対する憎しみを表しました。落ち着きを取り戻したように見えますが、すでにダメージは生じており人気の高いツアーの目的地であるトルコへの旅行をイスラエル人は控えるようになり、かつて仲のよい隣人であったのが疑惑の念で見えるようになりました。

2009年秋、トルコはイスラエルとの共同軍事演習を取りやめ、トルコ首相はイスラエルに対してさらに非難を噴出させました。これと共にトルコの指導者がイランのマフムード・アフマディネジャド大統領のようなイスラム指導者を招いたことから、イスラエルから疑念がさらに湧き起こりました。イスラ

エル国会議員(訳注:元国防相)フアド・ベン・エリエゼル氏が平和調停のためトルコを訪問したことは助けとなったようですが、次何が起こるかは、イスラエル人は何の準備もできていないのです。

レバノンのサアド・ハリリ首相を歓迎し、トルコのレジェップ・タイイップ・エルドアン首相は再び、イスラエルは世界平和の脅威であるということによって、すでに緊張している関係をさらに悪化させました。トルコのテレビでフィクション番組が流れ、それによってトルコ市民感情は激高しました。それは、イスラエルのモサド諜報員や他のイスラエル外交官が無実なトルコ市民に対して作戦を実行するもので、イスラエルの作業者によって子どもたちが殺されるという生々しいシーンが流れました。

それに続き、トルコ大使はイスラエル外務副大臣ダニー・アヤロン氏と会談するよう呼び出されました。会談は先週行われ、両国の新聞のトップページを飾る国際的な問題を引き起こしました。アヤロン氏はトルコ大使を報道陣の前で侮辱し、彼を低い位置に座らせ、彼らの間にあるテーブルの上にはイスラエルの旗しか置かず、公に握手するのを拒絶しました。それから彼はなぜこういうことをしたのか報道陣にヘブライ語で説明しました。関係の危機の焦点はイスラエルに移り、トルコ首相は副大臣アヤロン氏が謝罪するかトルコが大使を召還させるか、どちらかだとイスラエルに最後通達を申し渡しました。この出来事に関する説明と謝罪はなされましたが、最後にはベニヤミン・ネタニヤフ首相とシモン・ペレス大統領がトルコ指導部をなだめるため仲裁しました。

今週イスラエル国防相エフード・バラク氏が両国の緊張を解くためにトルコを訪問し、トルコは彼こそ我々と共に取り組むことができる人物であると結論付けました。このような反応をもたらしたのはどうということなのかは分かりません。バラク氏が「キャスト・レッド作戦」の実行者なのですが。

なぜこれが重要なのでしょうか。重要な政治的変化は、霊的変化が起こっているしるしであると常に私たちは考えているからです。このような変化はメシアの体とその地域での主の働きにどのような意味があるのでしょうか。明らかなのは国家としてトルコの方針が変化したことです。トルコはかつてヨーロッパに向いておりEUの一員になることを検討していましたが、現在、特にイランやシリアのような急進的なイスラム諸国との同盟を求めています。この国のユダヤ人やイスラエルに対する態度、そしてイスラエルの霊的な将来もまた変化しています。トルコのイスラム寄りの政府はトルコでの霊的変化の結果であることは疑問の余地はありません。この国においてイスラム教が主導権を握り、彼らは宗教的ルーツに合わせようとしているようですが、現在の政治支配の方針に反対する声が多くなっています。トルコにいるある者が言ったように、このイスラム主導の政府は、最終的に霊的な人生とその将来に対する別の答えを検討するよう、ある人々(訳注:イスラム支配を嫌がる世俗のトルコ市民を指す)を導いているのではないかと。もしそうであるならば、祈り、信じ、トルコにいる数多くのレムナント(訳注:残りの人々)たちの救いのために働く人々にとって、この状況は実際よいものであり、私たちが考えるよりも約束に満ちたものであるでしょう。

祈りの課題

どうかアシェルの1月25日(月)にチャンネル23(イスラエルのTV局)で録画されたインタビューを祈りに覚えて下さい。放送はそのあとすぐに行われます。

この特別な機会が神に栄光を与えることを信じ、私たちと共に立って下さい。イスラエル人信者を肯定的に説明すること、イスラエルのリバイバルに近づけることができますようお祈り下さい。

私たちは異常な量の技術的な問題に直面しています。e-mail が失われたり受信できなかったり、インターネットがダウンしたり、ランダムにいくつかの携帯電話が使えなくなったり、しかもスカイプまでおかしくなりました！技術的な問題を解決するだけでなく、これは霊的な戦いであると思っ
ています。このような技術的な問題が長期的に解決し、シオンから御言葉が再び伝えられますように。

雨が降り始めたことを私たちは喜んで報告します。先週10万人のイスラエル人は新緑の地方に出で楽しみました。ガリラヤ湖はまだ通常水位より低いのもっと水が必要です。さらに雨が降り続くようお祈り下さい。特に地中にしみ込む優しい雨であって、先週起こった土地浸食や急激な洪水が起こる雨でないようにお祈り下さい。